

クビアカツヤカミキリ情報第1号（モモ、ウメ）

令和7年7月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

クビアカツヤカミキリ成虫が確認されています 成虫の飛来に注意しましょう！！

1 クビアカツヤカミキリについて

(1) 形態及び特徴

クビアカツヤカミキリは外来生物法における特定外来生物に指定されています。
成虫の体長は約2～4cm、体色は光沢のある黒色で前胸背板が赤く触角は黒色で長いことが特徴です（写真1）。

(2) 生態

成虫は6月から8月に出現します。成虫は交尾後にサクラ、ウメ、モモ、スモモなどの樹木に産卵します。個体あたりの産卵数は数百～1000個と非常に多いです。産卵は樹木の樹皮表面や割れ目などに行われ、ふ化した幼虫は樹木内部に入ります。幼虫は樹木内部で2年過ごしたのち、羽化して樹木外へ出ていきます。

(3) 主な被害

幼虫が樹木の形成層を中心に内部を食い荒らすため、被害木は衰弱し、ひどいものは枯死に至ります。幼虫が入り込んだ樹木からは、フラス（幼虫のフンと木くず、樹液等が混ざったもの）が排出されます。幼虫は春から秋に活動するため、この時期にフラスが排出されます。本種によるフラスは、うどん状の細長い形状で、大量に排出されることが特徴的です（写真2、3、4）。

2 県内における発生状況

県内では名古屋市、津島市、稲沢市、愛西市、弥富市、あま市、蟹江町、飛島村で、街路樹のサクラを中心に本種により木が枯れる被害が発生しています。また、瀬戸市、小牧市、大治町においても、本種の成虫が確認されています（令和7年3月現在、自然環境課）。

令和6年に果樹園で本成虫の発生を確認し、令和6年6月18日に令和6年度病虫害発生予察特殊報第1号で本成虫の園地確認の情報を発表しています。

3 防除対策

- (1) 成虫を発見した場合は、直ちに捕殺してください。なお、捕獲する際に刺激臭を放つ場合があるので、手袋を着用してください。本種が確認されている地域では成虫による産卵の恐れがあるため薬剤散布を心がけましょう。主な防除薬剤は表1を参考にしてください。

※本種は特定外来生物のため、生きたまま持ち運ぶことは禁止されています。

- (2) フラスを見つけたら、食入孔に詰まっているフラスを針金等で掻き出し、長い針金を坑道に差し込んで刺殺するか、表2の薬剤を食入孔内に注入し幼虫を駆除しましょう。
- (3) 成虫の拡散を防ぐため、被害木（フラス排出など）に対し、根元から1.5m～2m程度の高さまで、4mm目合いのネットを巻きつけます（写真5）。樹木とネットが

密着していると、出てきた成虫がネットを食い破ることがあるので、樹木との間に余裕を持たせて、2重に巻きます。定期的にネット内を観察し、成虫を見つけたら捕殺してください。

- (4) 被害が大きい場合は、被害の拡大を防ぐため、被害木を伐採及び伐根しますが、成虫発生時期を外し、10月から翌5月に行います。伐採した木は、木の内部に幼虫が生息しているので放置せず、速やかに焼却または粉砕する必要があります。**被害木の処分、運搬などについては、取り扱いに注意が必要なため事前に市町村へ相談してください。**
- (5) **果樹園で成虫や被害を見つけた場合は、成虫はただちに捕殺し、病虫害防除室（以下の連絡先）または最寄りの農林水産事務所農業改良普及課までお知らせください。**

果樹園以外（街路樹や公園、庭木など）で見つけた場合は、愛知県自然環境課（052-954-6230）または市町村担当課へご連絡ください。

- (6) 詳細な防除対策は、下記資料などを参照してください

（農薬登録情報は変更があるので注意すること。また、樹木対象など果樹には利用できない農薬もあるので、登録内容をよく確認すること。）

クビアカツヤカミキリの防除法 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所

<https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/documents/5th-chuukiseika12.pdf>

クビアカツヤカミキリの関連情報のリンク集 環境省

https://www.env.go.jp/nature/gairai/info_kubiaka.html

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の規制に係る運用（クビアカツヤカミキリの運搬及び保管）について 環境省

https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/files/190326kubiaka_tsuuchi.pdf

4 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室

電話：0561-41-9513

表1 もも、うめのクビアカツヤカミキリ・カミキリムシ類に登録のある主な農薬（成虫対象）

農薬の名称	作物	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
バイオリサ・カミキリ	果樹類	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。	成虫発生初期	－
アクタラ顆粒水溶剤	うめ	散布	収穫7日前まで	2回以内
	もも		収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	うめ	散布	収穫前日まで	3回以内
	もも			3回以内
テッパン液剤	小粒核果類	散布	収穫前日まで	2回以内
	もも			2回以内

表2 もも、うめのクビアカツヤカミキリ・カミキリムシ類に登録のある主な農薬（幼虫対象）

農薬の名称	作物	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
ロビンフッド	うめ	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内
	もも			5回以内



写真1 成虫



写真2 被害木から排出されたフラス



写真3 フラス



写真4 フラス（拡大）



写真5 被害木へのネットの被覆

写真5は戸田尚希氏撮影